

実践者から学ぶ農福連携 Vol.2 株式会社布田ファーム



本格的に農福連携を始めた「株式会社布田ファーム」の事例を紹介！

◆株式会社布田ファームの概要

・岩沼市で農業を営む・2022年に法人設立・水稻、きゅうり栽培、米粉製菓、惣菜作り等行う

◆農福連携を始めたきっかけ



夫婦だけで農業を営んでいた布田ファームは、2022年の法人化を契機に、栽培品目や面積の拡大を検討していたが、2人だけでは手が回らないことから、拡大に踏み切れずにいた。また、妻が福祉事業所に以前勤務経験があったことから、農福連携に関心があったものの、福祉側とどうマッチングしたらいいかわからなかった。

2022年に宮城県が主催する農福連携推進セミナーに参加し、マッチングの方法について相談したところ、アドバイザーとして参加していたみやぎセルフ協働受注センターの担当者から速やかに、近隣の福祉事業所（NPOハンス・バーガー協会サポートセンターリーチェ）を紹介され、マッチングできたことにより農福連携がスタートした。

◆農福連携のメリット

《農業側》

●野菜の収穫量・売上げがアップ！

途切れなく農産物の生産が可能になり、収穫量、売上のアップにつながった。

●加工品のバリエーションを増やす等、次の展開が可能になった！

栽培する農産物の量や種類が増やせるようになったことで、加工品のバリエーションを増やすことが可能となり、夢が広がった。

《福祉側》

●利用者が仕事が楽しめるようになり、新たな能力を発見！

今まで経験したことがない仕事が多く、仕事を楽しめるようになった。また、利用者の新たな能力が発見できた。



◆農福連携の取り組み

●NPO法人ハンス・バーガー協会 サポートセンターリーチェとの取組

- ・支援員が、畑作業の経験がある希望者から12名をリストアップ。メンバーは固定せず、体調等を考慮したうえで、12名の中から3～5名を選抜。支援員は1名。
- ・週2日、午前中の2時間作業を依頼
(ハウス内・露地畑の除草、マルチ撤去、ブロッコリー・オクラ・レタスの種まき、きゅうりの定植作業等)

●NPO法人アスイクとの取組

(ひきこもりからの社会参画を目指す方の受け入れ)

- ・令和5年度は6月から2月まで、4回2名が参加。
- ・農作業の他、マルシェ等販売の手伝いにも参加。
- ・ボランティアで受け入れており、作業体験という形で参加。



◆農福連携の課題



●利用者は急に来れなくなることも！

利用者は気分や体調で当日突然これなくなることもある。それを理解した上で進めていくこと。また、人によってできること、できないことがあることを理解し、無理をさせないことも重要。

●利用者が働きやすい環境づくり

休憩スペースやトイレ等、利用者が働きやすい環境づくりが不十分であるため、今後は長時間働けるよう、工夫を行う必要がある。人数が増えた分、動線の確保も課題。

環境整備のために国、県、市の補助事業の活用も検討している。